

医療放射線被ばくに関する説明書

1. 放射線が体に及ぼす影響

放射線の影響は、被ばく線量が100mSv以上で発がんのリスクが0.5%増加すると推定されており、100mSv以下では発がんとの関係は確認されていません。放射線被ばくによる影響が生じる可能性がある境目として、“しきい値”が存在します。しきい値を超えない限り、放射線による影響は発生しません。

撮影部位	被ばく線量
脳	2～3mSv
胸部	10～20mSv
腹部	10～40mSv

表に示すように通常の検査では100mSvを越えることはありません。また、検査で受ける被ばく量であれば1日～数日で元の状態に戻ると言われていますので通常の検査であれば複数回の検査を受けても影響はないと考えられます。

CT検査における各部位の被ばく線量
※撮影方法・体型によって線量は増減します。

2. 検査の必要性

放射線検査は、得られる医療情報による患者の利益が被ばくによるリスクより大きいと判断される場合に行われます。また、定期的に放射線検査を行う場合があります。これは、病気の異変、治療効果などを適正に検出し治療を行う為です。



3. 被ばく線量低減の試み

当院では、診断参考レベルといわれる医療被ばく的最適化に使用されている指標を用いて、無駄な被ばくをしないように可能な限り低い被ばく線量で検査ができるように努めています。